



会 津 農 書

「私は、会津で、いや、日本ではじめて  
実際に役立つ農業の本を書くのだ。」

与次右衛門の自信は、小さいときから実  
際に農業の経験があること、たくさんの観  
察をし、ためしてみた記録のあることです。  
手本は、中国の『王禎農書』おうていののうしよがあります。  
本を書きながらも、雪の降らない季節に  
は、与次右衛門の観察と実験は、つづけら  
れていきました。

貞享元年じょうきやう（一六八四年）、与次右衛門は、  
五十五歳になりました。まだまだ、元気で  
す。年の暮れをむかえるころ、とうとう本